

アートプロジェクトにおける滞在型プログラムに関する研究 A study on the stay-type program in Art Project

○緒方彩乃¹, 佐藤慎也²*Ayano Ogata¹, Shinya Satoh²

Abstract: In today's artistic expression, Art Project is present as a mechanism for expanding the area of art with people. In that diffuses enough said one of the one of the art projects per city, and analyzed it is in any positions. The study was based on the definition by Junko Kumakura, art project that has been held in Japan in 2015. A total of 354 art project that was extracted from previous research. As a result, regardless of city size, there is a change of mind that they will continue. Art project is to transient events, or whether to become a presence that foster the culture of the region, it can be said that the ambiguous-stay program that captures the preparation and process has become important.

1. 研究背景と目的

今日の芸術的表現において、アートプロジェクト（以下 AP）と呼ばれる取り組みは、固有の作品のみならず、制作過程を含めて作品とするものや、過程そのものを作品として公開するなど、人々が持つアート（技）の領域を拡張させるプロジェクト（仕組み）として存在している。アートの領域拡張とともに、観客がみる／アーティストがみせるという単純な関係に留まらず、参加者がアーティストと共に作品を制作したり、アーティストが促し参加者が自発的に作品を制作するなど多様な関係が生まれている。これらの変容は、AP を特定の地域に設定し、トリエンナーレやビエンナーレといった祝祭的な形式で祭事のように催したり、地域と関わる場を運営しながら日常的に寄り添った形式により営んだり、この祝祭的・日常的形式を複合したかたちで開催している。それにより、地域づくりや文化資源の活用において有効性を示したり、地域社会に働きかける仕組みとなったりして日々多面的に進化している。しかし、1990 年代以降日本各地で増え続けている AP は、開催地の特色や実施目的を明瞭に掲げながら行われてきたが、「予定調和的な、いわゆる『地域の健全なお祭り』的なものも増えてしまっている」^{注1)} という見解もあらわれている。そのような中で、対象の地に赴き、生活・制作・発表を行う滞在型プログラムは、祝祭的とも日常的とも捉えることのできる多義的な取り組みといえる。

本研究では AP について、①様々な地域で多数実施されている現状を網羅的に捉え、②地域特性や開催形式により体系化し、③ AP における実施プログラム、特に滞在型プログラムに着目して比較、検討を行う。1 都市につき 1 AP と言えるほどに拡散している中で、どのような位置づけにあるか分析する。

1：日大理工・院（前）・建築 2：日大理工・教員・建築

2. 既往研究

AP の研究には、AP における地域メディアの本質は「人の参画」であると示したもの^{注2)}、継続的な AP における市民参加に関する変化に着目したもの^{注3)}がある。これらは、継続的な実施プログラムにおける市民との関わりの深い滞在型プログラムに着目している本研究の指標となる。また、特定の AP を事例に、みせる立場であるアーティストの情動から空間性の創出について述べているもの^{注4)}については、制作の方法論や場所生成法において参考となる。

さらに、豊島区で展開する AP「としまアートステーション構想」でのイベント^{注5)}の中で、芸術的活動を 6 項目に分類した展示を行い、一般市民へアンケート調査を行った（図 1）。その結果、場の有効活用への期待や、日常生活の中に非日常的体験が入り込んでくるという点で、AP は最も興味を持った芸術的活動であるという意見を得ることができた。

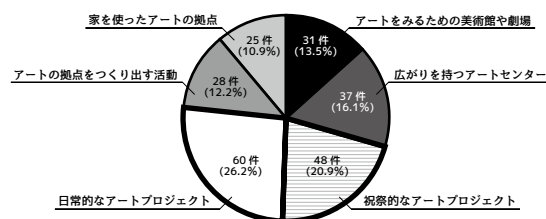


図 1. 一般市民が最も興味を持った芸術的活動（回答数 229 件）

3. 研究方法

研究対象は、熊倉純子による定義^{注6)}に基づき、2015 年度までに日本で開催された AP とする。既往研究^{注3)}や参考文献^{注6), 注7)}から抽出した計 354 件の AP を対象に、各 AP のホームページ、アーカイブ資料、ドキュメント本などから、地域、目的、運営形態、開催から事業終了まで、継続中の場合は現在に至るまでに実施された AP について、形式的分類を行いながら調査を行う。

4. 研究結果と考察

4-1 実施地域の特徴

事業数が多い地域は、都道府県別にみると（図 2）、東京都（70 件）、神奈川県（22 件）、大阪府（20 件）、兵庫県（19 件）という並びとなり、都市での実施が多い。一方で、地域の人口を基準とした場合（図 3）、実施事業の多い地域は 70 万人以上の地域となったが、この内訳には図 2 の上位都市と並んで、全国の各中心地も含まれている。次いで、1 万人以下の地域での実施が多いことから、規模に関わらず様々な地域で実施されていることがわかる。

4-2 実施事業における滞在型プログラムの特徴

AP を祝祭的、日常的、複合的形式に分類し、実施プログラム内のアーティスト滞在型プログラムについて着目する（図 4）。日常的 AP が場の運営を行っている場合が多いことから、滞在型プログラムに取り組みやすいと考えられる。複合的 AP については、取り組む場の環境に加えて、発表の場である祝祭的催しが設けられていることで、作品の幅が広がることから、最も多く取り入れられている。次に、実施年度別事業数において、新規、継続中並びに、その年度で終了するものを示した（図 5）。継続する事業が増加傾向にあることがわかる。中でも滞在型プログラムに着目したとき（図 6）、現在増加傾向にあることから、事業継続に関して重点的なプログラムであるといえる。さらに、滞在型プログラム実施事業を抽出して AP の形態をみると（図 7）、祝祭的 AP が減少し、複合的 AP が増加していることから、開催時以外の準備期間や継続していくことを念頭に置いた変化と捉えることができる。

5. 結論

様々な規模の地域で AP が実施され、開催形式の偏りもみられなくなった昨今、継続にむけた日常的な取り組みが重要視されていることから、AP が一過性のイベントになるのか、地域の文化を育む存在となるのかは、準備、過程を捉えた多義的な滞在型プログラムが重要になっているといえる。地産地消となり得る滞在型プログラムが AP 全体にどのような影響を与えているか、今後さらに研究を進める。

【脚注】

- 注 1) TOKYO SOURCE 「[Special 対談] 芹沢高志×岡田聡」, 1-1, 2010 年, <http://www.tokyo-source.com/interview.php?ts=55>
- 注 2) 田島悠史、小川克彦：アートプロジェクトにおける、地域メディアとして機能する芸術の考察, 環境芸術学会論文集, 11 号, pp. 57-64, 2012 年 11 月
- 注 3) 堀切梨奈子、佐藤慎也ほか：アートプロジェクトにおける市民参加に関する研究, 日本建築学会学術講演梗概集, pp. 947-950, 2014 年 9 月
- 注 4) 及川裕子：地域アートプロジェクトの空間性とアーティストの情動「墨東まち見世」を事例に, 人間文化創成科学論叢 17, 2015 年 3 月

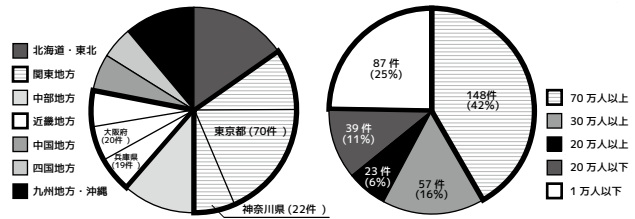


図 2. 都道府県別実施事業数

図 3. 地域人口別実施事業数

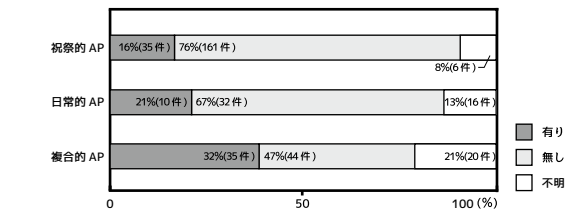


図 4. AP の形式に対する滞在型プログラム数

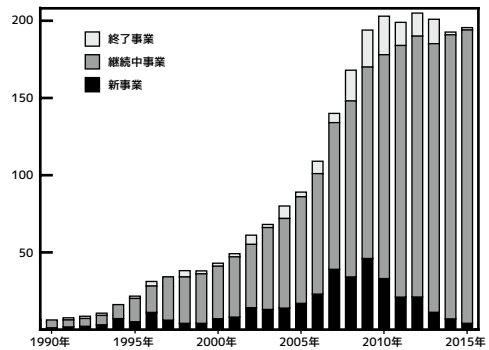


図 5. 全実施事業数

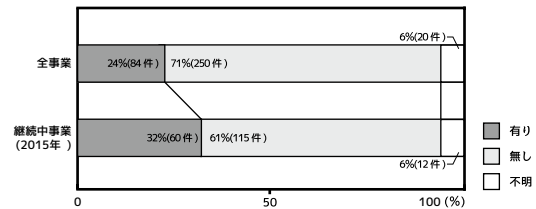


図 6. 実施事業に対する滞在型プログラム数

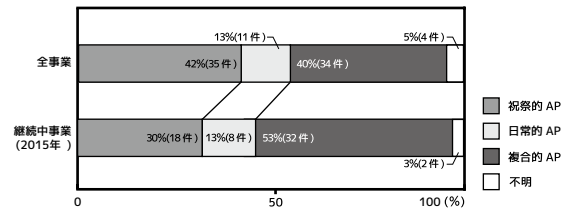


図 7. 滞在型プログラム実施事業に対する AP の形式

注 5) 2015 年 8 月に豊島区役所内で「アートステーション構想推進課パフォーマンス窓口」というイベントを開催。

注 6) 熊倉純子 監修：アートプロジェクト芸術と共創する社会, 水曜社, 2014 年 1 月より。AP とは「現代美術を中心に、おもに 1990 年代以降日本各地で展開されている共創的芸術的活動。作品展示にとどまらず、同時代の社会の中に入りこんで、個別の社会的事実と関わりながら展開される。既存の回路とは異なる接続/接触のきっかけとなることで、あらたな芸術的/社会的文脈を創出する活動といえる。」と定義されている。

注 7) P+ARCHIVE: 「地域・社会に関わるアート」に関する資料デジタルアーカイブ <http://parchive.xsrv.jp/drupal/artprj/domestic>

【参考文献】

- 1) 森司 監修：アートプロジェクトのつくりかた「つながり」を「つづける」ために, フィルムアート社, 2015 年 3 月
- 2) 暮沢剛巳：現代美術のキーワード 100, 筑摩書房, 2009 年 4 月